

雄大なスケールの回遊式庭園

京都仙洞御所

KYOTO SENTO GOSHO



京都仙洞御所・庭園の南池にかかる八ツ橋



京都仙洞御所の見どころ

1

歴代上皇が愛でた
美しい庭園



後水尾上皇が御所を造営した際、仙洞御所と大宮御所でそれぞれ分かれていた庭園ですが、時代とともにつながって、一つの庭園となりました。春は桜やツツジ、秋は紅葉など、仙洞御所の庭園では季節ごとにさまざまな植物がお庭を彩り、美しい光景が見られます。

2

和歌や漢詩にちなむ
景観や古跡

江戸時代に、桜町上皇が歌人・冷泉れいぜいためむら為村に命じて仙洞御所の10の美しい景色の和歌を詠ませたものを「仙洞十景」と言い、現代にも伝わっています。庭園の中には、万葉歌人・柿本人麻呂かきのもとしやが祀られている柿本社や、平安時代の歌人・小野小町の伝承が残る草紙洗そうしあらいの石もあります。



3

異なる特徴を持つ
庭園建築



醒花亭

又新亭

回遊式庭園の御茶屋である醒花亭せい かていは、くつろいだ雰囲気の中で宴会を行うための建物で、開放的でおおらかな空間です。対して、御茶室の又新亭またしんていは、作法を重んじる茶の湯に対応する建築空間となっており、2つの庭園建築の違いも見どころです。



（京都仙洞御所MAP）

きょうと おおみや ごしよ

京都大宮御所

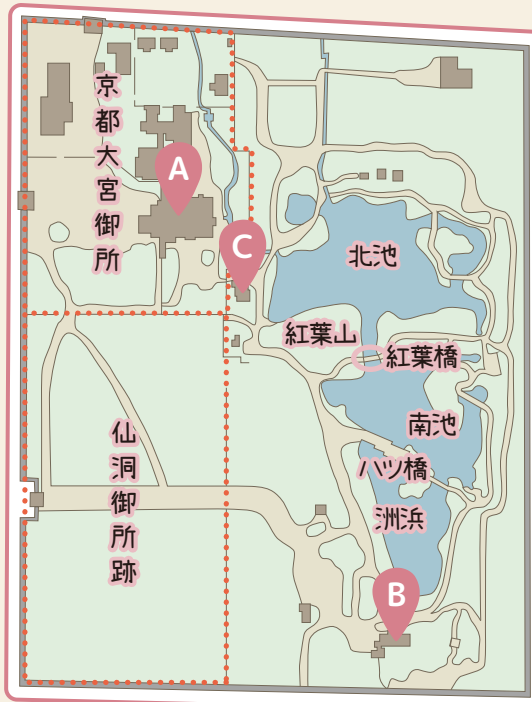
A おつねごてん 御常御殿



えいしやうこうたいこう こうめいてんのう
にようご
英照皇太后(孝明天皇の
女御)のお住まいとして
慶応3年(1867)に建てら
れました。天皇陛下など
の皇室の方が京都にいら
れた際に宿泊されます。

CHECK

大正時代、英国のエドワード皇太子の来日に合わせて、室内を和風から洋風にリフォーム。ガラス窓の使用や、室内にはレースのカーテンもつけられました。



京都仙洞御所

こみずのお れいげん なかみかど さくら
まち ごさくらまち こうかく
江戸初期～後期に6方の上皇(後水尾・霊元・中御門・桜町・後桜町・光格)が住まわれました。

B せい か てい 醒花亭

敷地の最も南にあり、お庭を一望できる御茶屋です。江戸時代の仙洞御所の様子をたどることができる貴重な建物で、文化5年(1808)後桜町上皇の時に再建されたものです。



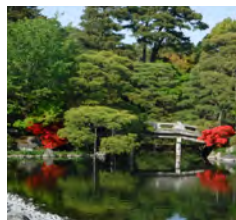
C ゆうしんてい 又新亭



こ せつ け この
え け
明治時代に、五摂家の近衛家から移築された御茶室です。大きな丸窓から光を多く取り込んでおり、これは江戸時代のデザインです。

庭園の見どころ

北池と南池



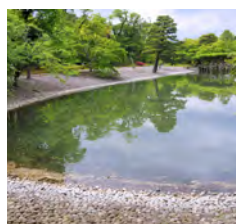
京都仙洞御所の庭園は、北池と南池という2つの大きな池を中心とした池泉回遊式庭園です。南池には藤棚に覆われたハツ橋があります。

紅葉橋と紅葉山

秋の紅葉時期にはあたり一面が真っ赤に色付き、散策しながら紅葉狩を楽しめます。この景色は「瀟殿の紅葉」として「仙洞十景」に選ばれています。



すはま いっしやうせき 洲浜の一升石



南池の南西部には、約12万個の玉石(一升石)が敷き詰められた洲浜があり、雄大な景観が広がります。